

FUKUVI 

フクビ
クリーンOAフロア ピット30R
施工要領書

 フクビ化学工業株式会社

【目次】

フクビ クリーンOAフロア ピット30Rは、多種多様な配線をフロアベースの溝部分に収納することができる機能的なOAフロアです。

この施工要領書は、快適なOAフロアを維持するに当たって、施工の際には是非守って頂きたいこと、実施して頂きたいことをまとめたものです。

1.クリーン OAフロアピットシリーズの構成と仕様

1-1 クリーン OAフロアピット30Rの部材構成……P2

1-2 配線の取り出し方法……P3

2.材料

2-1 部材……P4,5

2-2 オプション部材……P5

3.施工手順

3-1 施工前の準備と確認……P6

3-2 割付……P6

3-2-1 片側の壁面から割付を行う場合……P6

3-2-2 室の中心から割付を行う場合……P6

3-3 フレックスシートZの敷設……P7

3-3-1 クリーンOAフロア用スプレー接着剤を使用して敷設を行う場合……P7

3-3-2 市販の片面粘着テープを使用して敷設を行う場合……P7

3-4 フロアベースの敷設……P7

3-4-1 フロアベースの敷設……P7

3-5 ボーダーベースの加工……P8

3-6 ボーダーベースのがたつき防止対策……P9

3-7 アルミ見切の取り付け……P9

3-7-1 アルミ見切の取り付け……P9

3-8 スロープベースの取り付け……P10

3-9 自主検査……P10

3-10 仕上げ材の施工……P10

4 重量機器の搬入要領……P11

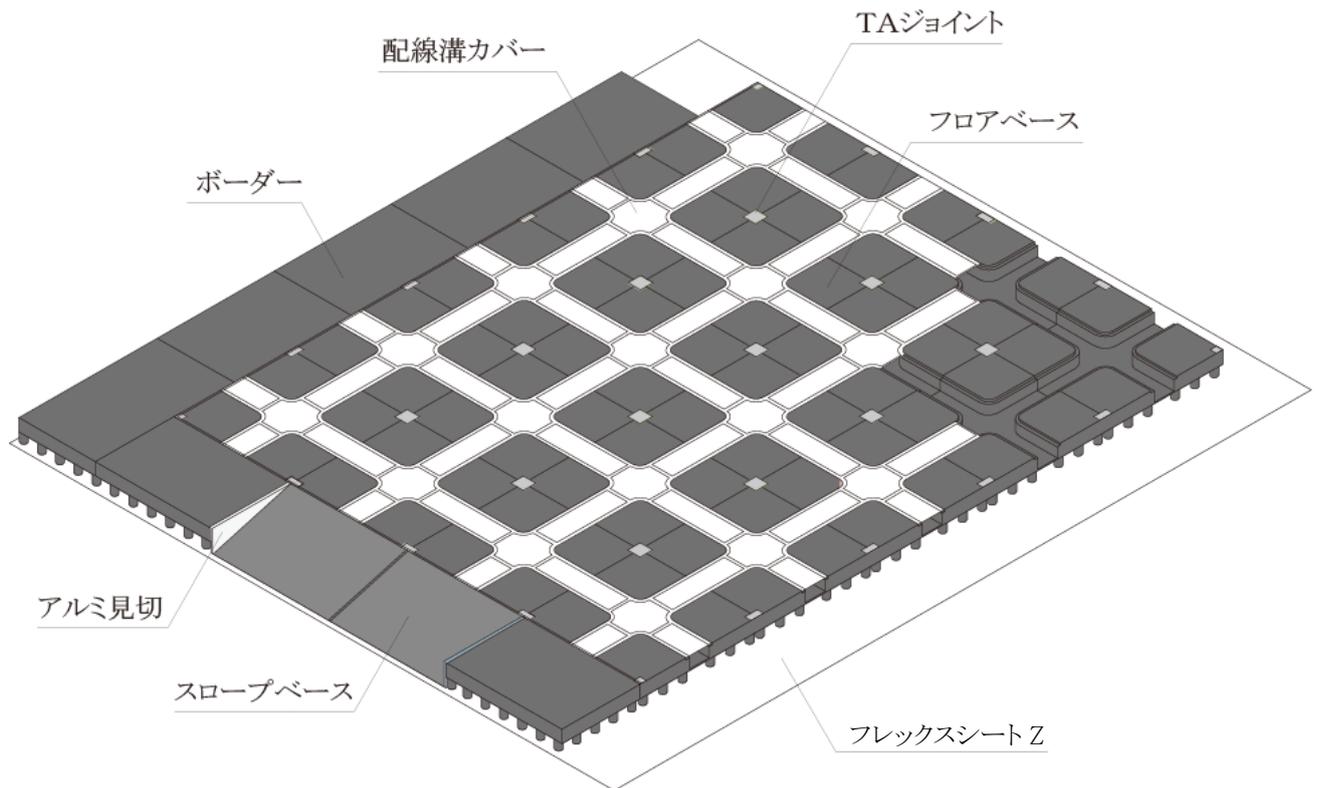
自主検査表……P13

1. クリーン OA フロア ピット30Rの構成と仕様

1-1 クリーン OA フロアピットシリーズの部材構成

クリーン OA フロアピットピット 30R は、フロアベース、配線溝カバー、TA ジョイント、ボーダー、フレックスシート Z で部材を構成し、フレックスシート Z を敷設後、フロアベース、配線溝カバーを敷き並べ、フロアベースを TA ジョイントで連結する置敷工法の OA フロアです。また出入口用の部材として、框の役割をするアルミ見切、台車など走行をスムーズにするスロープベースを取り揃えています。

○部材構成

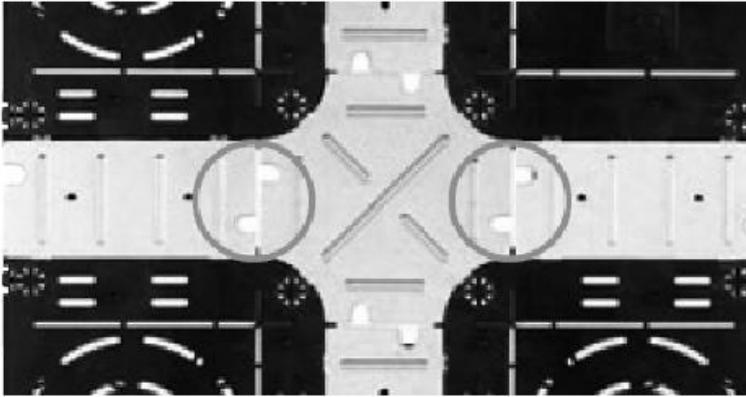


1. クリーン OA フロア ピットシリーズの構成と仕様

1-2 配線の取り出し方法

溝カバー部に配線取り出し口がありますので、その部位から通線します。

○ピット 30R



2.材料

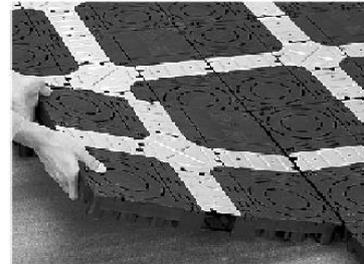
2-1 部材

ピット 30R フロアベース



- 材質:再生ポリプロピレン樹脂
- 寸法:500mm×500mm×30mm
- 梱包:4枚(1㎡分)

配線溝カバー一体型(ピット 30R・ピット 50R)
※フロアベースと配線溝カバーが一体型です
ので、施工がスピーディで簡単に行えます。



TA ジョイント

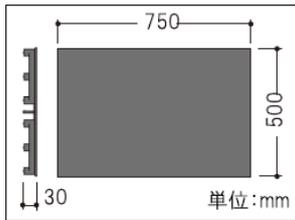


- フロアベースに同梱

2.材料

2-1 部材

ボーダーベース 30



- 材質:再生ポリプロピレン樹脂
- 寸法:500mm×750mm×30mm
- 梱包:4 枚入/ケース

スペアスタンド 30R

30R 50S

- 材質:ポリプロピレン樹脂
- 梱包:100 個

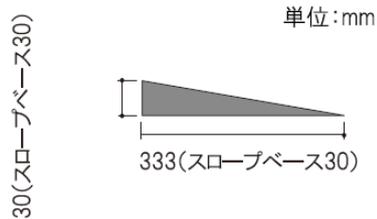
フレックスシート Z



- 材質: ポリエステル系樹脂
- 寸法:2mm×1000mm×20m 巻
- 梱包:1 本

2-2 オプション部材

スロープベース 30



- 材質:ポリプロピレン樹脂
- 梱包:4 個/ケース

アルミ見切 J
床高 30 用



- 材質:アルミ押出型材
- 梱包:2 本/ケース

クリーン OA フロア用
スプレー接着剤



- 材質:ラテックス系
- 容量:430ml
- 梱包:6 本入
- 目安量:30 m²/本

3. 施工手順

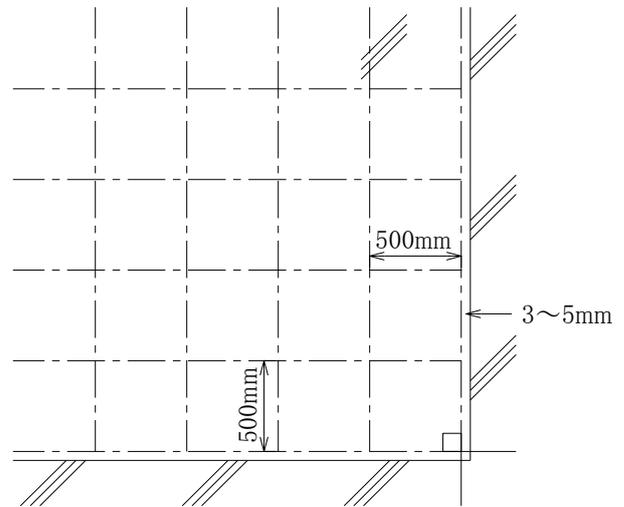
3-1 施工前の準備と確認

- コンクリート床下地の場合、下地面はタイルカーペット直張り仕上げとする場合と同程度に仕上がっていることを確認してください。(モルタル金ゴテ仕上げ 3/1000mm 以内を目安としてください。)
- コンクリート面を清掃し、極端な凸凹がある場合は修正を依頼してください。
- 解梱包は施工階にて行ってください。
- 直射日光が当たる場所やストーブ前での長時間の放置は避けてください。パネルが変形するおそれがあります。

3-2 割付

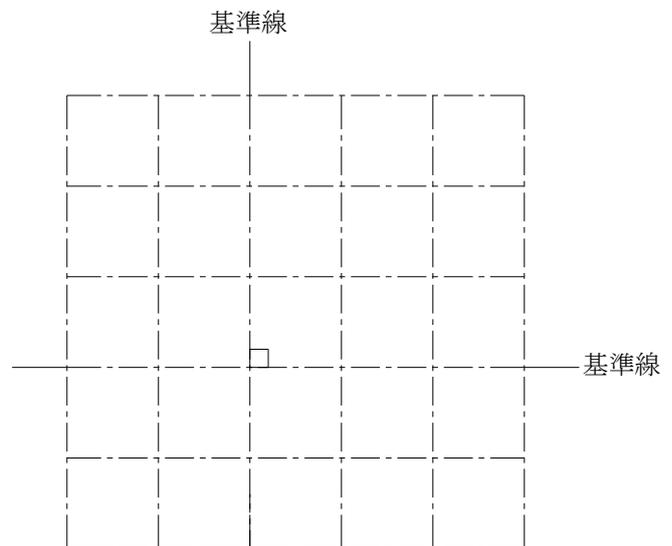
3-2-1 片側の壁面から割付を行う場合

- ①右図の様に壁面から3～5mmの位置を基準線とし、割付を行います。



3-2-2 部屋の中心から割付を行う場合

- ①部屋の縦横の基準線として割付を行います。



3. 施工手順

3-3 フレックスシート Z の敷設

3-3-1 クリーン OA フロア用スプレー接着剤を使用して敷設を行う場合

- 床下地にクリーン OA フロア用スプレー接着剤を散布しながら、フレックスシート Z をフロアベース施工部分全面に敷設してください。
※シートにフクレ、シワ等がないこと及びシート同士が重なっていないことを確認してください。



3-3-2 市販の片面粘着テープを使用して敷設を行う場合

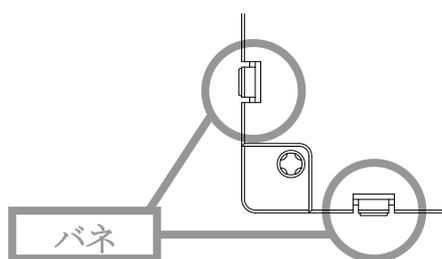
- フレックスシート Z をフロアベース施工部分全面に敷設し、ズレ防止のため、シートのジョイント部を市販の片面粘着テープで押さえてください。
※シートにフクレ、シワ等がないこと及びシート同士が重なっていないことを確認してください。



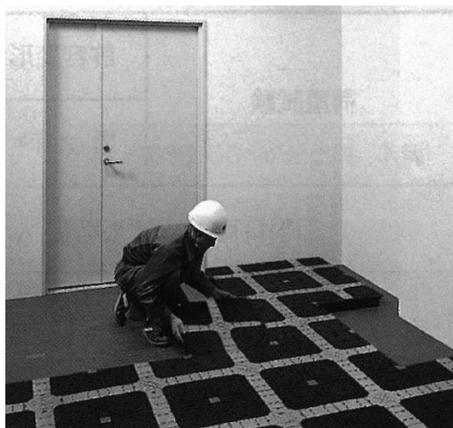
3-4 フロアベースの敷設

3-4-1 フロアベースの敷設

- 基準線よりフロアベースを敷き込むと同時に、TA ジョイントでフロアベース同士の連結を行ってください。
※フロアベースコーナー部にあるバネを軽く当てて目地を出しながら、敷設を行ってください。
※TA ジョイントの施工は、フロアベースを敷き詰めた後まとめて行うのではなく、フロアベースを1枚敷き詰める毎に行ってください。



フロアベースコーナー部詳細



フロアベースの敷設

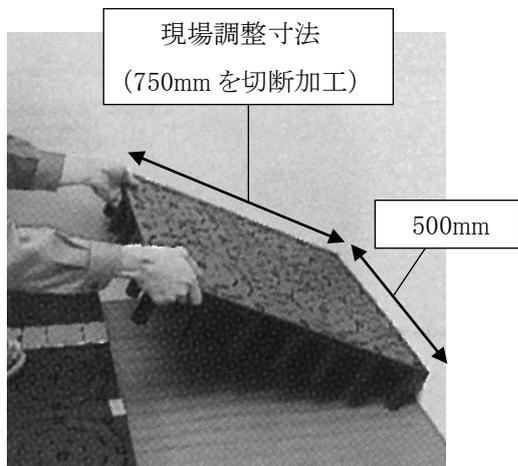


TA ジョイントの施工

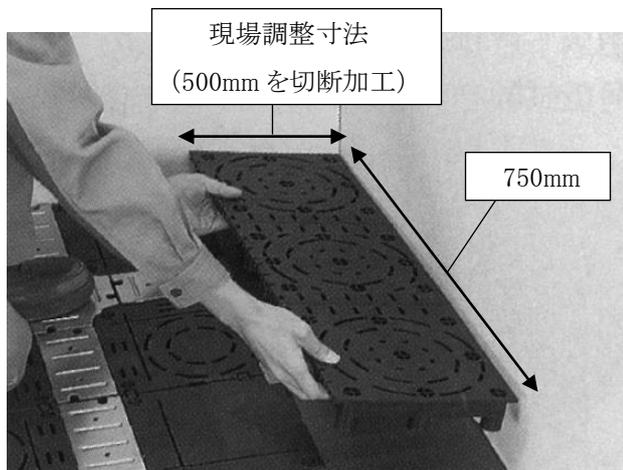
3. 施工手順

3-5 ボーダーベースの施工

①壁際の寸法により、ボーダーベースの方向を決定してください。



ボーダーベース 横使い



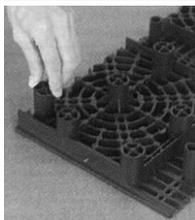
ボーダーベース 縦使い

②フロアベースとボーダーベースの隙間寸法(3~5mm)及び壁際隙間寸法(3~5mm)を見込み、切断加工寸法を決定し、ボーダーベースの切断加工を行ってください。

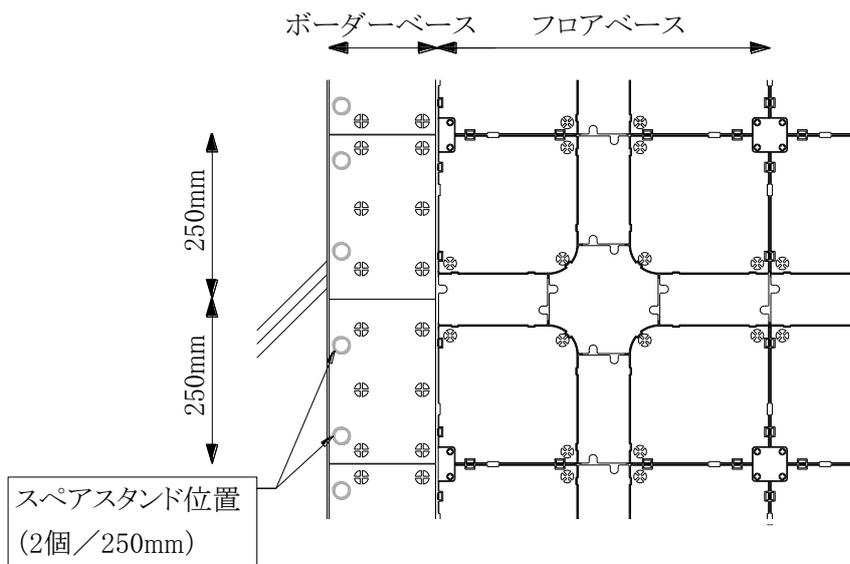
③切断加工を行ったボーダーベース裏面のリブに、補強としてスペアスタンドを差し込み(ボーダーベース長さ250mm に対し 2 個取り付け)、フロアベースの敷設を行ってください。

※スペアスタンド 30R を使用

※壁際部のパネルを敷設する際、フロアベースとボーダーベース及び壁面とボーダーベースに隙間(3~5mm)があることを確認してください。



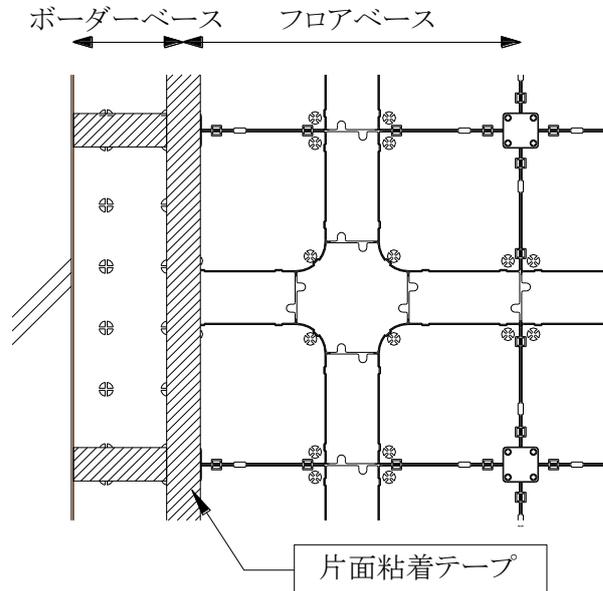
スペアスタンドの取り付け



3. 施工手順

3-6 ボーダーベースのがたつき防止対策

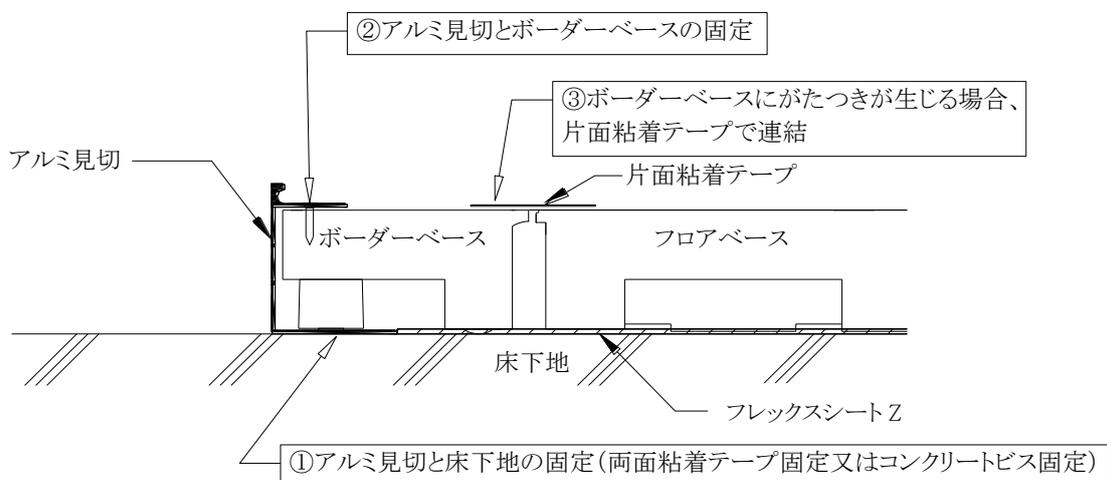
○ボーダーベースにがたつきが生じる場合、片面粘着テープでボーダーベースを連結し、がたつきを抑えてください。



3-7 アルミ見切の取り付け

3-7-1 アルミ見切の取り付け

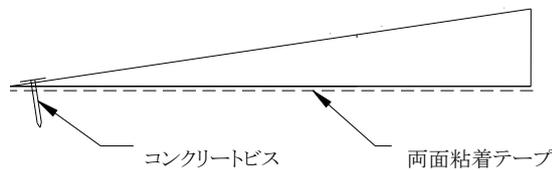
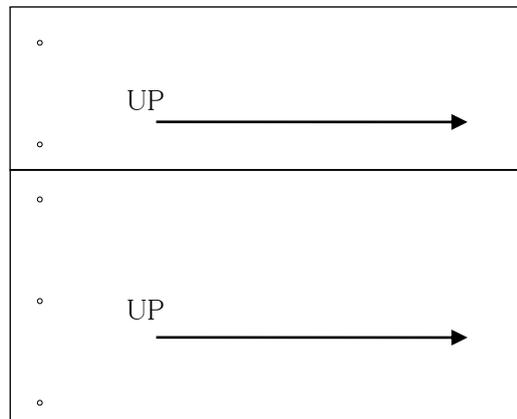
- ①アルミ見切を所定の長さに切断し、アルミ見切と床下地を両面粘着テープ又はコンクリートビス(ビスピッチ 500mm 程度)で固定します。
- ②アルミ見切とボーダーベースを皿ビス(φ3×15 程度(皿頭径: φ6))で固定します。(長さ 250mm に対し、2箇所固定)
- ③ボーダーベースにがたつきが生じる場合、片面粘着テープでフロアベース同士を連結し、がたつきを抑えてください。



3. 施工手順

3-8 スロープベースの取り付け

- ①スロープ設置部分にスロープベースを並べ、必要に応じ切断加工を行います。
- ②床下地面とスロープを両面粘着テープで固定します。
- ③スロープ先端をコンクリートビスで固定します。
- ④がたつき防止の為、スロープベースのつなぎ目を片面粘着テープで固定します。



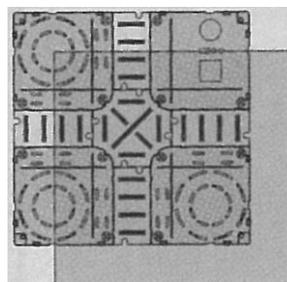
3-9 自主検査

- 接着剤硬化後、自主検査表をもとに検査を行います。自主検査表はP12に記載しています。

3-10 仕上げ材の施工

- タイルカーペット、OAフロア用タイル等仕上げ材は、
フロアベース本体の目地・配線溝カバー(クロス・ストレート)
をまたぐ様に施工を行ってください。

フロアベース本体



仕上げ材

4.重量機器の搬入要領

設備などの搬入・搬出に関して、キャスターによるこじりや衝撃などによる過大な移動荷重がOAフロアに作用し、パネルに窪みを生じさせたり、場合によってはパネルを破損させる事になります。

パネルの上を300kgを超える資材を運ぶ場合は、過大な局部荷重をさけ合板等を用いて面荷重で荷重を受けるように養生を行ってください。

また、下記事項にご留意ください。

○移動荷重は人力で押す程度の静かな載荷を前提としてます。

○方向転換の為、キャスターをこじる、急なロックをかける等の操作は過大な荷重が生じますので避けてください。

自主検査表

平成 年 月 日

殿

工事名: _____

検査日時: 平成 年 月 日

検査者氏名: _____

下記の検査を自主検査を行いましたのでご報告します。

項目	検査要領	品質目標		自主検査結果
パネルの面高さ(※1)	目視で判断し、必要のある箇所を水平器・水糸などで測定する。	歩行に支障のないこと。		
パネル間の段差	目視で判断し、必要のある箇所を直定規・隙間ゲージなどで測定する。	A(※2)	1.0mm 以下	
		B(※2)	2.0mm 以下	
パネルの目地の通り	目視による。	支障のないこと。		
がたつき	歩行による。	支障のないこと。		
外観	目視による。	有害な破損や汚れのないこと。		
開閉性	開閉による。	開閉・復元が容易なこと。		
汚れ	目視による。	著しい汚れのないこと。		

※1: ドア枠、ファンコイル、ボーダーコンクリート、架台のレベルに差があり床仕上げレベルを合わせる必要がある場合は除く。

※2: A はビニル床タイルの目地ずらしはり仕上げ、B はタイルカーペットの目地ずらしはり仕上げに適用する。

○上記項目、検査要領、目標品質はフリーアクセスフロア工業会の一般事務室における推奨値。

(フリーアクセスフロアの性能評価 2009.10(フリーアクセスフロア工業会規格)より引用)